

アルミフロント取扱店の皆様へ

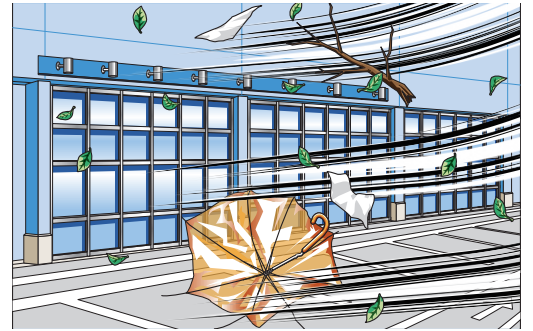
I はじめに

近年、アルミフロントの開口が大型化していく中、大型台風・強風が頻発する状況が続いています。

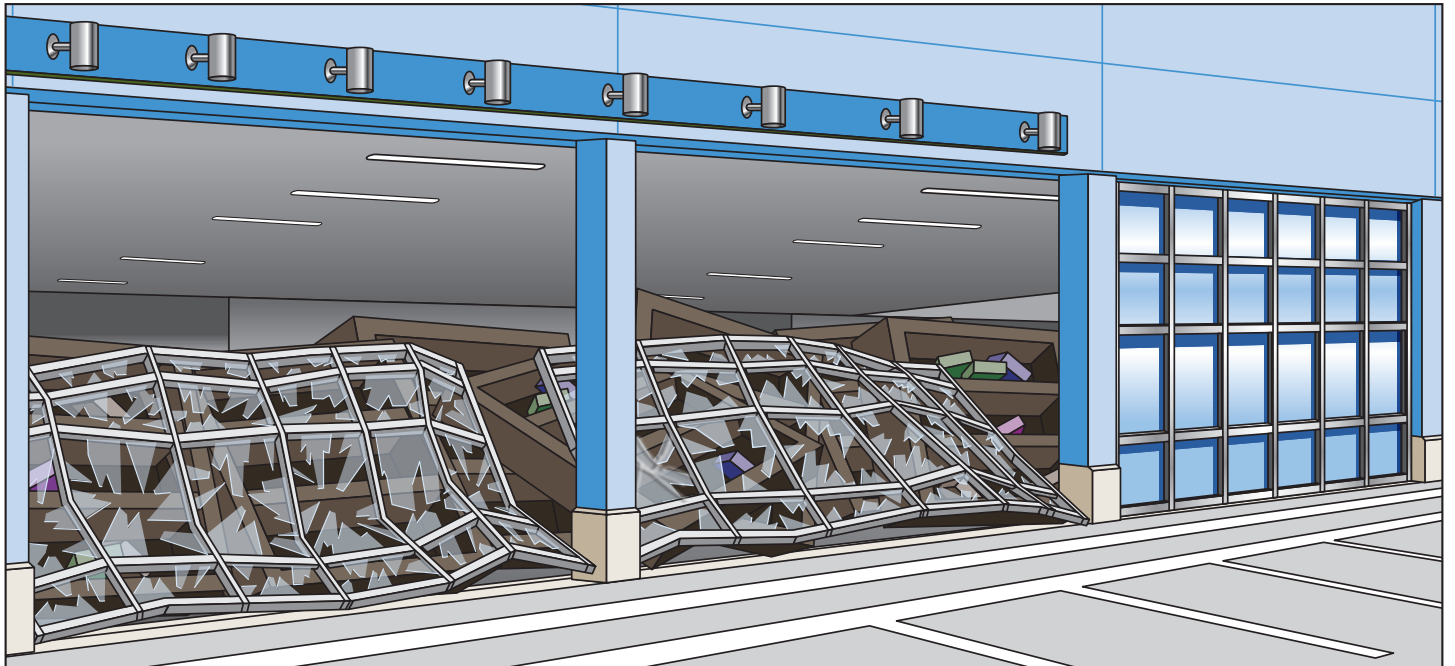
2018年9月の台風第21号は、四国や近畿地方で猛烈な風（最大瞬間風速：和歌山57.4m/s、大阪47.4m/s）が吹き、各地で大きな被害をもたらしました。翌年9月の台風第15号では、関東地方において、観測史上1位の最大風速や最大瞬間風速（千葉57.5m/s、木更津49.0m/s）を観測し、2025年9月の台風第15号は、静岡県で暴風や記録的な大雨となり、局地的に突風の強さ約75m/sの竜巻も発生し、各地で建築物被害が報告されています。

建築物等の被害において、アルミフロントの脱落・転倒が確認されており、このたび想定される要因、施工方法についてポイントをまとめました。

今後もより安全で快適な商品供給のために、正しく施工していただきますようお願いいたします。

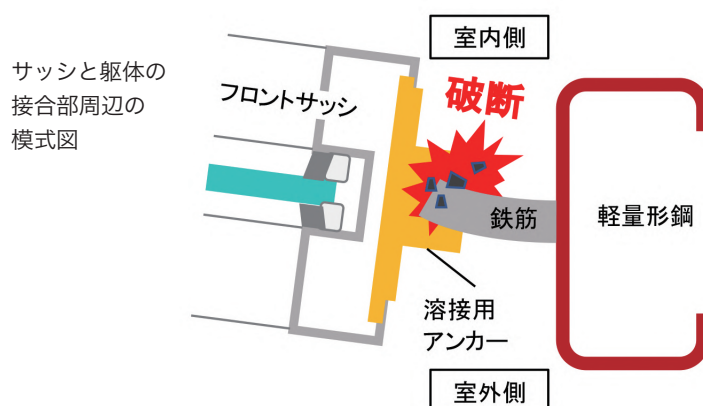


アルミフロントの脱落・転倒事例



想定される要因

被害のあった現場は、モルタル詰めをしない鉄骨納まりで鉄筋棒溶接が破断していました。



アルミフロントの施工方法及び躯体との接合部強度について

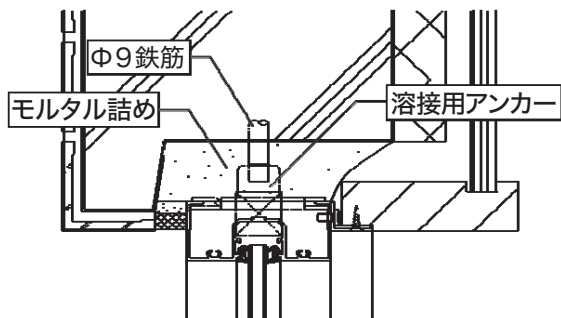
アルミフロントにおいて、方立や無目等の耐風圧性を確保するだけでなく、躯体との間の接合部に適切な耐力を確保できる工法を採用するとともに、必要に応じて当該工法による耐力を計算によって確かめることが重要です。

アルミフロントの躯体との接合部の工法として、湿式工法と乾式工法があり、乾式工法は、アンカー溶接部の耐力確認が必要です。各アルミサッシメーカーの強度制限表と合わせ接合部の施工基準を遵守してください。

※昨今の異常気象による想定以上の強風、突風の発生が観測されており、強風対策の観点から強度の高い方立を推奨します。

湿式工法（鉄筋溶接）

RC造やALC納まりのように、アルミフロント廻りにモルタルを詰める工法で、風などの荷重はモルタルが支えています。

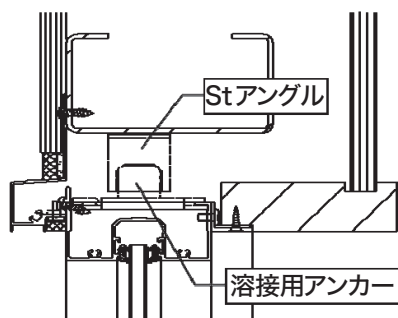


注意

「 $\phi 9$ 鉄筋」での溶接接合はあくまで仮固定であり、湿式工法ではモルタルによって強度を保持しています。

乾式工法（アングル溶接）

鉄骨造のように胴縁にStアングルを用いてアルミフロントを取り付ける工法で風などの荷重は溶接部が支えています。



注意

Stアングルがつけられない納まりの場合（狭い、広い）

適正な間隔・取合いを確保するよう建築会社様との事前打合せを推進願います。

室内へのサッシ溶接施工の場合

振動や衝突の衝撃で溶接不良による接合部破断のリスクはございます。アングルでの溶接接合を実施願います。

（その他の接合方法の場合、建築会社様と協議のうえ実施ください。）

溶接用アンカーは、サッシ枠との空回りやはめ込みの甘さによる脱落がないよう固定願います。

「乾式工法におけるアルミフロントの施工基準」はアルミサッシメーカーごとに異なります。